課題番号41

育成牛飼養の改善による酪農の生産効率向上

～乳牛の初産分娩月齢の短縮（３戸平均30ヶ月→28ヶ月）～

対象：深川市酪農家１戸　奈井江町酪農家１戸　砂川市酪農家１戸

１　活動の背景

・飼料、資材高騰している中で、酪農経営の効率を上げるため
・発育改善による初産分娩月齢の短縮　効果 ⇒ 乳量増加
・北海道の初産分娩月齢平均は２４ヶ月齢
・北・中空知地域の酪農１５戸の平均は２５ヶ月齢とやや長い
　２５ヶ月齢以上の農場は６戸と地域全体の１／３
・対象農家は改善意欲の高い３戸　⇒　平均３０ヶ月齢と長い

２　活動の経過

取組説明と現状調査（飼料・飼養環境・発育）→改善後調査（発育）

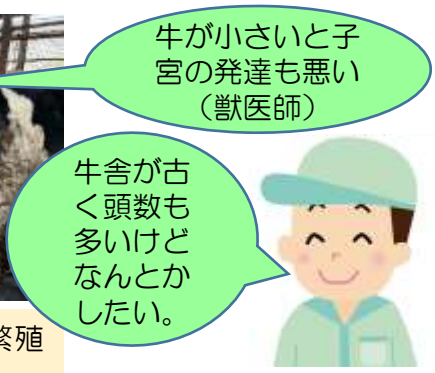
<table>
<tr><th>農場</th><th>R7年１月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th><th>5月～8月</th><th>11月</th><th>11~12月</th></tr>
<tr><td>A
（深川）</td><td rowspan="2"></td><td>取組説明
発育調査</td><td rowspan="2">結果返却
改善提案</td><td colspan="2" rowspan="2">状況確認</td><td rowspan="3">発育調査</td><td rowspan="3">結果返却
改善提案</td></tr>
<tr><td>B
（奈井江）</td><td>取組説明</td><td>発育調査</td></tr>
<tr><td>C
（砂川）</td><td></td><td></td><td>取組説明
発育調査</td><td>結果返却
改善提案</td><td>状況確認</td></tr>
</table>

農場の現況と課題

農場	１頭当たり給与飼料内容	飼養環境	問題
A	２番草・イネWCS・配合2kg	繋ぎ牛舎・ 一部フリーバーン	栄養価（エネルギー不足）
B	イネWCS・配合2kg	フリーバーン	栄養価（エネルギー・蛋白不足）
C	１番草・WCS・配合2kg	フリーバーン	飼養密度（高い）→食い負け牛発生

ＪＡ担当者と
育成牛の体格測定調査

ＮＯＳＡＩ獣医師の繁殖
検診と連携



C農場

提案内容
Ａ農場：デントコーン給与
Ｂ農場：栄養設計提示　搾乳牛用ＴＭＲ残飼給与 ・大豆粕給与
Ｃ農場：粗飼料の飽食・搾乳牛用ＴＭＲ残飼給与と群分け

３　成果の具体的内容

Ａ農場
栄養価向上

デントコーン
給与(3月～)

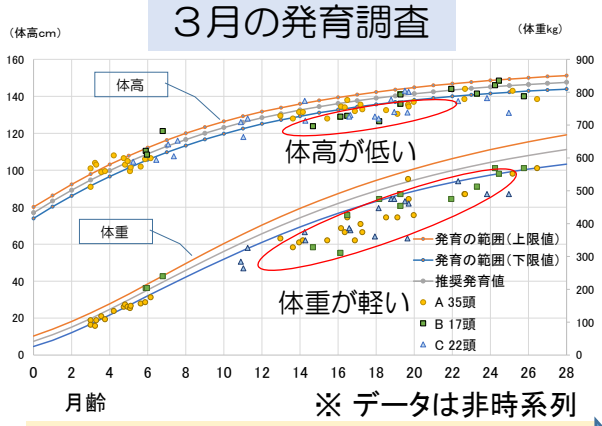
Ｂ農場
栄養価向上

ＴＭＲ残飼の給与(2～4月)
大豆粕給与(11月～)

Ｃ農場
飼養密度低減・栄養価向上

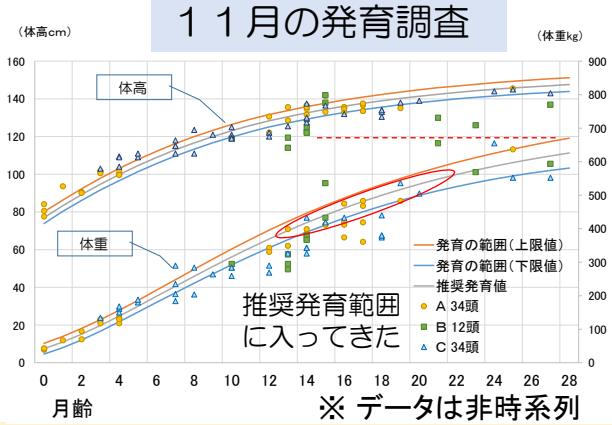
放牧(5～7月)
受胎牛の群分け(8月～)
配合タンパク増給(11月～)

３月の発育調査



※ データは非時系列

１１月の発育調査



※ データは非時系列

発育推奨範囲に入らない牛が多い　⇒　A,C農場では発育の向上が見られ始めた

繁殖成績等（R7,3~R8,2乳牛検定成績より）

農場	初産分娩月齢			年間305日初産乳量（kg）		農場の声	評価
	以前（R7,3）	現状（R8,2）	分娩予定	（R7,3）	（R8,2）		
A	28	27	24	7,825	8,387	自然発情が増えてきた	◎
B	30	30	30	6,857	7,264	改善したい	△
C	32	30	28	7,772	7,602	自ら主体に取り組み腹が良くなってきたと思う	○
平均	30	**29**	**27**	7,485	7,751		**○**

※評価基準　◎改善高い　○改善あり　△これから

４　今後の課題と対応

２農場で改善の目処が付いたため課題は終了し、今後は個別対応とする。